

## GIGA 端末活用実践事例

宇都宮大学共同教育学部附属中学校：指導者：中山 智史

教科・領域等	学年	単元名・題材名等
社会	3	現代の日本と世界 ～戦後日本の発展と国際社会～

### 1. GIGA 端末活用のポイント

#### (1) 本時の目標

グループで行った調べ学習を基に、戦前の日本と比較したり、現在の日本と関連付けたりすることを通じて、戦後における日本のターニングポイントについて、考察する。

#### (2) 活用アプリ

ロイロノート

#### (3) GIGA 端末以外で利用した機器

なし

#### (4) アプリの活用場面と目的

オンライン  オフライン

#### 授業での活用場面（授業概要）

本単元は戦後の日本について、グループで調べ学習を行い、集めた情報を共有し、戦後の日本のターニングポイントはどこであるのかを考察する授業である。グループ毎にテーマを決めて調べた内容を共有し、戦後の日本の年表を作成した。それらを基に、個人が考えるターニングポイントを共有ノート上に表現することで、互いの意見を一目で共有・比較することができ、情報の伝達を速やかにを行い、議論する時間を確保することができた。

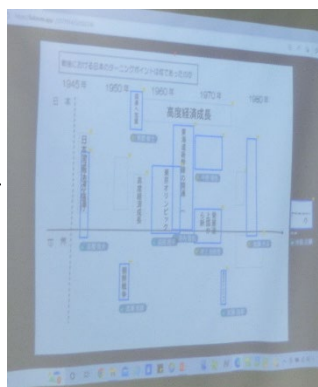
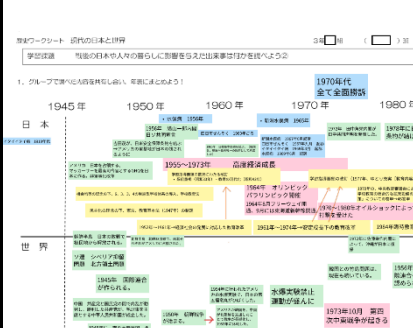
1 時間目・・・戦後の日本について調べるテーマを設定する。

2～4 時間目・・・戦後の日本について調べ学習を行い、年表にまとめる。

5 時間目・・・戦後の日本のターニングポイントについて、個人の考えを共有ノート上に示し、比較や関連付けをしながら、考察する。

### 2. GIGA 端末活用の画面例（写真等）

①調べた内容を年表にまとめる(前時)。②各自の意見を共有ノート上に示す。



③グループで考察する。



### 3. 効果と課題

#### (1) GIGA 端末 (アプリ) を活用して効果的だった点

一斉学習	<input checked="" type="checkbox"/>	教師による教材の提示				
個別学習	<input type="checkbox"/>	個に応じた学習	<input checked="" type="checkbox"/>	調査活動	<input type="checkbox"/>	思考を深める学習
	<input checked="" type="checkbox"/>	表現・制作	<input type="checkbox"/>	家庭学習	<input type="checkbox"/>	
協働学習	<input type="checkbox"/>	発表や話し合い	<input checked="" type="checkbox"/>	協働での意見整理	<input type="checkbox"/>	協働制作
	<input type="checkbox"/>	学校間の交流	<input type="checkbox"/>	家庭学習	<input type="checkbox"/>	

これまでは、ホワイトボードや模造紙を活用することで意見をまとめていたが、共有ノート上で作業を進めることで、互いの意見を瞬時に共有することができ、個人の端末でいつでも確認することができるため、グループで議論したり、個人で考えをまとめたりする時間を多く確保することができた。

#### (2) GIGA 端末 (アプリ) を活用して課題に感じた点

一斉学習	<input type="checkbox"/>	教師による教材の提示				
個別学習	<input type="checkbox"/>	個に応じた学習	<input type="checkbox"/>	調査活動	<input type="checkbox"/>	思考を深める学習
	<input type="checkbox"/>	表現・制作	<input type="checkbox"/>	家庭学習	<input type="checkbox"/>	
協働学習	<input checked="" type="checkbox"/>	発表や話し合い	<input checked="" type="checkbox"/>	協働での意見整理	<input checked="" type="checkbox"/>	協働制作
	<input type="checkbox"/>	学校間の交流	<input type="checkbox"/>	家庭学習	<input type="checkbox"/>	

複数の生徒が自身の端末から一斉に操作するため、意見が重複してしまった際の対応について課題が見られた。

また、端末を操作している時間が多くなるほど、話し合いなど他の学習活動にかかる時間が少なくなってしまうため、目的意識をはっきりとさせた上で使用することが大切であると考えます。さらに端末に不具合が見られた際に、学習活動への参加が滞ってしまう生徒が出てきてしまうため、個別に対策を用意しておく必要があると感じました。